

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

1. 基本情報

都道府県名及び市町村名

青森県南部町

学校名

南部町立福地小学校

学校のURL

なし

2. 学校紹介

学級数

【通常の学級】全学年各 1 学級、【特別支援学級】 1 学級、【合計】 7 学級

児童生徒数

【全児童数】119 名(平成 23 年 12 月 1 日現在)
(内訳：1 年生 23 名、2 年生 17 名、3 年生 22 名、4 年生 16 名、5 年生 18 名、6 年生 23 名)

学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校教育目標】
「勉強する子」「思いやりのある子」「健康な子」
【努力目標】
「自分や他人を大切にする子」
【人権教育に関する目標】
「自分も大切、友だちも大切」

人権教育にかかる取組の全体概要

まずは教師集団自らが人権感覚を養い、児童に接する
・人権感覚を磨く日常指導(教師用パンフレット)の活用と、自己評価カードを用いた自己評価。
授業の中に話し合いの場を設定(校内研究)
・授業場面の中に、相手の立場に立って話し合う場を設定。
実践の場の設定(児童会活動・特別活動(縦割り班活動))
・児童会を中心とした活動や特別活動(縦割り班活動)を通じて、相手を思いやる心を育てるための実践を展開。また、その足跡が見える教育環境の整備。

3. 特色ある実践事例の内容

児童会を中心とした活動や特別活動(縦割り班活動)を通じて、相手を思いやる心を育てるための実践を展開。また、その足跡が見える教育環境の整備。

1 はじめに

昨年度、教師集団自ら人権感覚を養い、児童と接していくことをねらいとして、「一人一人を認め大切にするため」、「互いに良さを認め合う集団づくりのため」という教師用パンフレットを作成し、教師が児童と接する際の留意点、学級経営・授業づくりのためのポイントを明確にした。更に教師が自己点検するための評価カードを作成しながら人権教育を進めてきた。

今年度は、児童一人一人が互いに他の人の良さを見つけ、思いやりの心を持って接することができるよう、実践の場を設定し、より具体的な形で人権感覚を養う活動を展開することとした。

2 取り組む内容とその理由

児童会を中心とした活動

よりよい学校生活を送るためには、常に教師が児童に対してトップダウン的に指導を行うだけでなく、互いに相手を思いやる活動が必要である。そこで、高学年を中心とした児童会活動の中に人権の視点をちりばめていくこととした。

特別活動(縦割り班活動)

以前から縦割り班活動を行ってきた。卒業を前に、下級生から卒業生に向けたメッセージの中に、縦割り班の班長さんへお礼の気持ちが多く見られた。

子ども達同士の関わりの中でも、しっかりと思いやりの心の芽生えが見えていた。

そこで、更にこの活動をしっかりとしたものとするため、1年間を通した縦割り班活動を行うこととした。



3 実際の実践について

児童会活動

1年間を通した児童会のスローガンづくり

昨年度までは、運動会・学習発表会など、大きな行事のスローガンであったが、人権教育をスタートさせるに当たり、子ども達の1年間のスローガンを作ることとなった。各学級に児童会役員が出向き、スローガンの趣旨を説明し、代表委員会を開いて、以下のスローガンとなった。

「**広げよう みんなの力 みんなの心**」

このスローガンのもと子ども達の様々な取り組みが行われることとなった。

人権標語募集！

夏休みが終わり、9月1日付、児童会便りで、人権標語を募集する新聞が出された。1年生から応募できるよう、『人権というのは「だれとでも仲良くするということ」です。』という説明があり、たくさん子ども達から標語が出された。



(各学年の標語から)

- ・6年生「何よりも みんなの笑顔が 宝物」
- ・5年生「けんかせず みんなで仲良く 話合い」
- ・4年生「この気持ち、みんなに伝えて 一つになろう」
- ・3年生「ありがとう みんなのやさしさ うれしいな」
- ・2年生 「つながろう みんなといっしょに
たすけ合い」
- ・1年生 「ともだちと いっしょにあそぶと
たのしいよ」

児童総集会アンケート

児童総集会に向けたアンケートが全校に出された。

今回は、「もっと学校生活を良くするためのアンケート」という内容で、どんな学校を作っていきたいか。みんなからアイデアを募集し、来年度の学校生活に生かそうというものだった。

特別活動（縦割り班活動）

今年度の児童119名を15名8班とし、1年間を同じ集団で活動することとした。毎週1回の活動では、遊びや話し合い活動など各班が6年生の班長さんを中心に意見を出し合い、みんなで仲良く、楽しく活動ができることをねらいとしている。その意味で、ただ下級生の世話をするだけでなく、集団活動の中で下学年にルールを教えたり、頑張っている活動することの大切さを教えることも重要な要素となる。

大きな活動としては、遠足（今年度は雨のため校内遠足だった。）、七夕集会の飾り付け、秋の芸術集会での絵画作成などを行ってきた。

校内遠足 ゲーム



七夕集会 飾りづくり

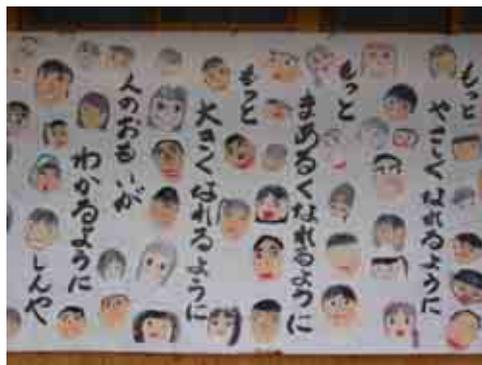


芸術集会 作品発表

学習発表会での保護者・地域へのアピール

今年度の学習発表会では、子ども達の日々の人権教育に関わる活動を少しでも保護者・地域の方に知っていただくよう、全校合唱曲に「ねえ 歌おう」という曲を選んだ。そのさびの部分子ども達の自画像とともに掲示した。

この掲示はその日だけではなくその後校舎内に掲示している。



4. 実践事例の実績、実施による効果

まず先に教師自らが資質向上のために人権教育に取り組んできたことにより、児童との関わり方が以前よりも意識的に行うことができてきた。その上に立って、教育課程の中に人権教育を位置づけたことにより、学級経営、授業、児童会行事等々の範囲にわたって活動を推進することができた。

また、実践の場として、児童会活動を中心とした児童の主体的な活動を後押しする活動を行ってきたことにより、教師に指示されて動くのではなく、自分たちでよりよい学校生活を送ろう、みんなで思いやりのある関係をつくろうとする意識が芽生えてきたことや、校内研究だけでは、各学級それぞれの活動に終始しがちであるが、縦割り班活動を位置づけたことにより、全ての教師が1年生から6年生までの児童と触れ合いながら多面的に児童の活動の様子を支援できたことは非常に良かった。

5. 実践事例についての評価

今年度の取り組みを振り返り、人権教育・人権感覚を教師からの説教や指導ではなく、子ども達の活動に置き換え、よりよい学級生活・よりよい学校生活を送るためにみんな仲良く、お互いを大切に思う活動場面に具体的に降ろしながら進めることができたと思う。

児童会の役員を中心に、各学級でいろいろな意見を出し合ったり、代表委員会で話し合ったりした。(1年生もお客様ではなく、素晴らしいアイデアを出していた。)

また、縦割り班活動では、上学年が下学年を思いやり、下学年は上学年に感謝をしながら仲良く取り組む姿も見られていた。

保護者アンケートの中からも、97～98%の保護者が思いやりの心を育ててくれていると評価している。

今後は、人権感覚を更に磨きながら、日常の授業場面でも発揮し、確かな学力の定着につなげていきたいと思っている。どの教科の授業においてもその根底にあるお互いを思いやる心が育っていけば、みんなで手を取り合いながら頑張っていく姿が見られるものと確信している。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

南部町立福地小学校

人権教育の目標を「自分も大切,友だちも大切」とし,特別活動を中心とした児童の主體的な活動を促す教育実践を展開している。とりわけ,全校児童 119 名を 15 名 8 班の構成とした縦割活動は,児童一人ひとりの実践的な意欲付けとともに異年齢による集団活動の特性(下級生の世話,集団でのルールの学び合い,他を思いやるなど)を十分に実らせ,人権教育の成果を上げている。

1 年間を通して同じ班の集団で活動し,6 年生がリーダーとして活躍する場を毎週 1 回設定している。本校の実態を踏まえた目標の具現化の一つの方途として評価できる点である。この 8 つの班での遊びや話合いの活動がベースとなり,日常的な代表委員会の活動や運動会,学習発表会等の学校行事の活性化もみられる。代表委員会のスローガンづくり,人権標語募集の活動,そして学校行事としての校内遠足,七夕集会,芸術集会などの実践をきめ細かに行っている。また,これらの児童の実践活動とともに,教師自らが人権感覚を養うことに努め,自己評価カードの活動などに積極的に取り組んでいる。